

学校周辺をきれいに

神原中の清掃活動



ごみを拾って歩く生徒ら（常盤通りで）

神原中（岡田浩典校長）の全校生徒168人が5日、地域ボランティアとして、約1時間にあたって学校周辺でクリーンアップ活動を行った。神原小（大中正浩校長）の6年生60人も参加し、一丸となって地域の美化に努めた。

日頃お世話になっている地域に、自分たちのできることで貢献することが目的。毎年、神原公園などで行っているが、今回は宇部まつり直後のため、常盤通りとJR東新川駅も加え、7コースに分かれて実施した。生徒たちは軍手をは

め、ビニール袋や火ばさみなどを手に、たばこの吸い殻、ペットボトル、空き缶、落ち葉などを拾って歩いた。市環境衛生連合会神原支部（平井保支部長）の有志らも手伝った。

西岡奏芽（かなめ）さん（2年）は「思っていたよりもごみが落ちていなかった。きれいになって気持ち良かったので、自発的に清掃をして同じ思いを共有できる人が増えてくれたら」と願った。

小学6年の井上瑛理奈さんは「6年生と中学生が一緒になって地域の掃除をすることは大切だと思った。人目につかないところにペットボトルなどが落ちていたので、注意して拾って回った」と満足そうに話した。